

ACANTHUS NEWS



「アカンサス」(和名「ハアザミ」)は、南ヨーロッパ原産で葉を様式化した文様はギリシャ建築などで有名。金沢大学の校章も、このアカンサスの葉を図案化したもの。

平成14年 **2002.7**

月刊アカンサスニュース
金沢大学広報紙 第70号

大学院医学系研究科保健学専攻博士後期課程 設置記念式典・祝賀会

TOP NEWS



本年4月に設置された大学院医学系研究科保健学専攻博士後期課程の設置記念式典・祝賀会が、6月28日、金沢市内のホテルで、県内の医療関係者や大学関係者約140名が出席して挙行された。

記念式典では、馬淵宏大学院医学系研究科長の式辞の後、林勇二郎学長があいさつし、村田貴司文部科学省高等教育局医学教育課長をはじめ来賓4名から祝辞を受けた。

なお、記念式典に先立ち、新たに完成した大学院研究棟を県内の医療関係者や大学関係者に披露した。(関連記事6頁)

あいさつする林学長



祝辞を述べる村田文部科学省高等教育局医学教育課長



新研究棟の施設を見学する関係者

巻頭言

Serendipity –研究における偶然–



副学長（研究・環境担当）
中村 信一
（医学系研究科教授）

本学医学部薬理学講座・第2代教授岡本肇先生（1902–1996）は、1957年に「核酸による溶血性連鎖状球菌の溶血毒増産現象の発見について」の研究で栄誉ある学士院賞を受賞された。本年は先生の生誕100周年にあたる。

先生は研究室が隣同志であったよしみで私の研究室へしばしばお越しになり「研究にはby chance型と、こう考えたら果たしてこうなった型があり、by chance型が重要である」旨のお話をされていた。

一昨年、ノーベル化学賞を受賞された白川博士はストックホルムでの授賞式で「東洋からきたSerendipの王子様」と紹介されたと報じられている。また、昨年ノーベル化学賞を受賞された野依博

士は、座談会で研究におけるSerendipityの重要性について話されている。Serendipityとは、「何かを目指している最中に、偶然に、智慧の働きによって全く別のすばらしい発見がなされること」を意味する。二十数年の歳月を経て、岡本先生の「by chance」とはSerendipityに他ならなかったことをようやく知るに至った。

今日、「こう考えたら果たしてこうなった」型のプロジェクト研究が全盛であり、多額の研究費が費やされている。本年度に始まった「21世紀COEプログラム」もプロジェクト研究であるが、その中で生じるSerendipityこそが科学のブレークスルーにつながるものであろう。偶然を見逃さないセンスを、岡本先生の聲咳（こゝろが）に接することがなかった若い世代に継承できればと願う今日この頃である。



目次

大学院医学系研究科保健学専攻博士後期課程 設置記念式典・祝賀会	1	市民公開講座 アイソトープ利用50周年記念講演会を開催	8
巻頭言 Serendipity –研究における偶然–	2	シンポジウム「ネットワークが拓く医療の世界」開催される	8
文部科学大臣感謝状伝達式・御遺骨返還式挙行	3	第12回日本熱帯生態学公開シンポジウム 「グローバル化と熱帯地域」	8
全国国立大学教員養成学部事務長協議会ひらく	3	総合教育棟で「交通安全講習会」を開催	9
永年の漕艇部指導に対して感謝状を贈呈	3	講演会「スモークハラスメントを考える」ひらく	9
国立大学法人化に向けて「短期調査」を実施	4	附属病院講演会「患者が望む医療の安全とは」	9
特別講演会「私立大学の考える差別化戦略」ひらく	4	本学へのお客さま	10
産学連携セミナー 金沢医療福祉産業都市構想の中核を担う金沢大学の対応	4	教育学部附属幼稚園第48回教育研究会開催	10
平成14年度語学要員養成研修が開講	5	「極限の白い大陸・500日間」を講演	10
モンタナ日記の山田事務官が帰朝報告	5	サテライト・ブラザミニ講演会 「持続可能な観光開発とは」	11
加賀能登の『薬草シンポジウム』（第3回）	5	法学公開講座「生活を守る法律学」	11
薬学部附属薬用植物園主催市民開放講座	5	暮らしの化学 一身のまわりからノーベル賞まで	11
金沢大学大学院医学系研究科保健学専攻博士後期課程の設置	6	「海外留学フェア2002」を初開催等	12
新しい医療技術科学研究の幕開け	6	「角間の里山自然学校」小展示	12
「金沢百万石まつり」パレードに参加	7	編集後記	12
「キャンパス美化」	7		

ニュースの杜

文部科学大臣感謝状伝達式・御遺骨返還式挙行

6月15日、医学部十全講堂で献体者に対する文部科学大臣感謝状伝達式及び御遺骨返還式がしめやかに挙行され、御遺族、医学部関係者約500名が出席した。

式では、医学教育のために献体された方々に対し、全員による黙とうと献花が捧げられ、故人31名の冥福を祈った。

午後からは、第100回合同慰霊祭が行われ、献体者並びに病理解剖者を含めた185名の方々の霊を偲んだ。



追悼の言葉を述べる馬淵宏大学院医学系研究科長・医学部長
＝医学部十全講堂

全国国立大学教員養成学部
事務長協議会ひらく

あいさつする川野本学教育学部事務長（議長）
＝金沢市内のホテル

6月20日、金沢市内のホテルで、本学を当番大学として、平成14年度全国国立大学教員養成学部事務長協議会が開催された。

同協議会には全国から56名が出席し、全体会議では、文部科学省高等教育局専門教育課教育大学室の吉田教員養成係長から、大学（国立大学）の構造改革の方針、今後の国立の教員養成系大学・学部の在り方、学校の安全管理等について説明があり、続いて、①今後の国立の教員養成系大学・学部の在り方、②国立大学の法人化への対応等、③教員就職率の改善に向けての対応状況、④附属学校と大学・学部との連携－の4項目について、協議された。

永年の漕艇部指導に対して
感謝状を贈呈

6月10日、事務局特別会議室で、昭和28年以来今日まで、半世紀にわたって本学漕艇部監督として技術指導に尽力された高木重知氏に対して、林学長から感謝状を贈呈した。

漕艇部の競技力は全国レベルに達しており、女子クルーは、平成元年、かじ付フォア、平成5年ペアー、平成7年ダブルスでいずれも全国優勝している。



高木重知氏（中央）と大学関係者
＝事務局特別会議室

ニュースの杜

国立大学法人化に向けて 「短期調査」を実施

6月3日から5日までの3日間、事務局第二会議室で、国立大学法人化に向けた本学の諸課題及び準備事項を把握するため監査法人による「国立大学法人移行のための短期調査」が実施された。組織、監査、予算、契約、購買・支払、人事、旅費、収入、国有財産、外部資金、会計システム等の業務について公認会計士による事情聴取を基に、報告書が7月中旬に本学へ提出される予定。



質問に回答する松坂総務課長と初山主計課長
=6月3日、事務局第二会議室

特別講演会「私立大学の考える差別化戦略」ひらく



創立時の建学精神等が重要と述べる八田浩康氏
=事務局特別会議室

6月19日、事務局特別会議室で、亜細亜大学総合企画部企画課八田浩康氏を招き、私立大学の意思決定システム、意思決定の区分等に関する特別講演会があり、約30名が受講した。

八田氏は「私立大学は、創立時の建学精神・理念、育成したい学生像、続けたい教育等を重視している」ことを強調した。講演後、私立大学と国立大学の具体的な意思決定等の相違点について質疑応答が行われた。

産学連携セミナー 金沢医療福祉産業都市構想の 中核を担う金沢大学の対応

5月27日、医学部で、医学系研究科産学連携・共同研究推進委員会主催のセミナーが臼井共同研究センター客員教授を講師に開催され、約60名が参加した。

臼井客員教授は、金沢及びその周辺部に医療関係の大学が集積しており、その特徴を生かした金沢医療福祉産業都市構想、及びその中核を担う金沢大学に、新しい分野として生命工学科の設置を提案し、石川県や金沢市、企業などとの産学連携を強力に推し進める必要性を強調した。



金沢医療福祉産業都市構想について説明する
臼井共同研究センター客員教授
=医学部保健学科会議室

研修等

平成14年度語学要員養成研修が開講



あいさつする大島事務局長

6月3日、事務局第一会議室で、平成14年度語学要員養成研修の開講式が行われた。

このコースは3コース（英語中級、中国語、韓国語）に分かれ、計13名の受講者は平成14年12月まで行われる研修に励むこととなった。

なお、語学要員養成研修は、平成9年度から実施しており、延べ104名の事務職員が受講している。

学びの決意を新たにする受講生
=事務局第一会議室

モンタナ日記の
山田事務官が帰朝報告

6月27日、事務局大会議室で、国際交流課山田事務官による帰朝報告会が開催され、約30名の教職員が出席した。同事務官からインターンとして在籍したモンタナ州立大学やテキサス大学の状況、職場の様子などについて報告があった。



モンタナ州立大学について説明する山田事務官
=事務局大会議室



あいさつする御影
雅幸薬用植物園長
=6月29日、白山
セミナーハウス望
岳苑



薬草観察会で熱心に講師の説明に聞き入る参加者
=6月30日、白峰村の薬草観察会風景

加賀能登の『薬草シンポジウム』(第3回)

薬学部附属薬用植物園主催
市民開放講座

6月29、30日、薬学部附属薬用植物園主催の第3回「加賀能登の『薬草シンポジウム』」が開催された。1日目は白峰村白山セミナーハウス望岳苑において講演会及び研究報告会が行われた。本学大学院生3名の研究成果の報告に引き続き、国立医薬品食品研究所つくば薬用植物栽培試験場長関田節子氏の「食品と医薬品」など3題の特別講演があった。

2日目は約70名が清水建美本学名誉教授の引率で白山高山植物馴化センターを見学し、その後、6名の講師の説明で白峰村内の薬草観察会が行われた。

医学系研究科, いま

金沢大学大学院医学系研究科保健学専攻博士後期課程の設置 新しい医療技術科学研究の幕開け



医学部保健学科長
永川 宅 和

この度、文部科学省より、2年前の修士課程の設置に引き続いて、国立大学医学部保健学科の中で4番目に大学院博士後期課程の設置が認められ、この4月より定員25名を超えた29名が入学しました。

金沢大学医学部保健学科は、医学、医療の急速な進歩や人々の高齢化、生活水準の向上など、健康、医療、福祉を取り巻く社会環境の変化や多岐にわたる分野での医学に対するニーズの変化により、平成7年10月に医療技術短期大学部が改組・転換され、4年制の学部・学科として新設された。

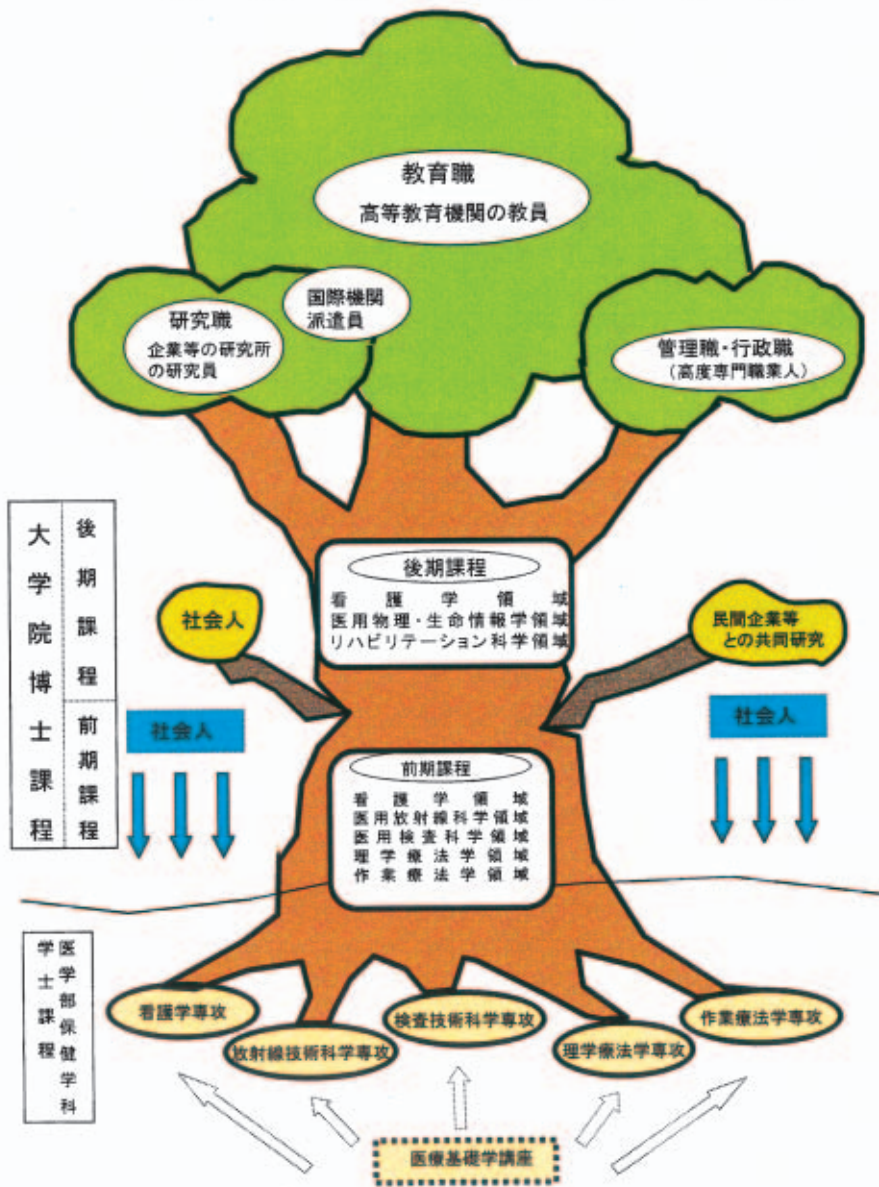
さらに、この度既存の修士課程2年を博士前期課程とし、5年一貫の大学院博士課程をもつこととなり、この6月28日に多くの来賓者を迎えて大学院研究棟の竣工披露を兼ね博士後期課程設置記念式典・祝賀会を石川厚生年金会館にて催しました。

博士後期課程では、高度医療技術の研究開発、医療技術の高度化、細分化に対処できる専門職業人の育成やこれら分野の教育、研究者の養成を目指しております。なお、勤務しながら履修できる社会人入学の制度も取り入れております。熱意あ

る大学院生が多く入学することを期待します。

また、本学の医学系研究科保健学専攻は、我が国における同領域の中でも最も広い分野の専門家を有していることから、将来は、視能訓練士や言語聴覚士、リハビリテーション療法を組み入れた介護分野のコース、各種医療機器の開発を目指した医用（生命）工学のコースの設置など、ますます変遷する医療に対応できるように準備を進めております。

金沢大学大学院医学系研究科 保健学専攻概念図



トピックス

「金沢百万石まつり」パレードに参加

6月8日開催された「第51回金沢百万石まつり」の「パフォーマンスパレード」に教職員、学生約100名が参加して、「利家とまつ」ブームで盛り上がる金沢市内を威勢良く練り歩き、「地域に開かれた金沢大学」を市民にアピールした。林学長と畑副学長が、市役所前のメインスタンドから参加者を激励した。

4回目の参加となった今年は、チアリーダー部員が初参加し、伝統の『キリコ』3基の担ぎ手には留学生のほか屈強な男子柔道部員も加わり、「加賀は天下の書府」、「知の集積 金沢大学」、「地域医療を支え

る金大附属病院」、「兼六園と近江町のちょうど真ん中、金沢大学サテライト・プラザ」などを唱和しながら、後に続いた。



激励する林学長(中央)と畑副学長(左)

初参加のチアリーダー部員



学生や教職員約100名が参加



伝統の「キリコ」を担ぐ外国人留学生と男子柔道部員

「キャンパス美化」

5月から6月にかけて除草・清掃などのキャンパス美化作業が全学で実施され、教職員、学生（工学部）が多数参加した。

なお、この美化作業は、秋にも実施を予定している。



小立野キャンパス
=5月30日



角間キャンパス
=6月10日、G駐車場付近

事務局				文学部 法学部 経済学部	教育学部	
総務部	経理部	学生部	施設部			
6月10日	6月11日	6月12日	6月13日	6月14日	6月24日	
理学部	医学部		附属病院	薬学部	工学部	附属図書館
6月14日	6月6日	6月13日	6月13日	6月22日	5月20日～ 5月31日	6月13日

シンポジウム等

市民公開講座 アイソトープ利用50周年記念講演会を開催



熱心に聞き入る出席者

見学コーナー風景
= 金沢市観光会館



(左) 講演する佐藤博がん研究所教授

(右) 講演する大村明雄理学部教授

放射性同位元素委員会及びアイソトープ総合センターは、6月22日、市民に「科学の不思議及び面白さ」などに興味をもってもらうため、金沢市観光会館で「金沢大学市民公開講座－金沢大学アイソトープ利用50周年記念講演会－」を開催した。市民や学生ら約250名がアイソトープを利用した研究、放射能や放射線について理解を深めた。

シンポジウム「ネットワークが拓く医療の世界」開催される

総務省情報通信月間北陸地区行事の一環として、6月12日、金沢市内のホテルでシンポジウム「ネットワークが拓く医療の世界」が開催された。

岩原正吉工学部教授を研究代表者とする研究グループが中心となって、医療関係者、情報処理・通信関係者等にネットワークによる高度な医療診断の平準化を目指した遠隔医療の在り方について研究成果の一端を報告した。また、市民を対象とした特別講演会も開かれた。



発表する
岩原工学部教授

発表に聞き入る参加者
= 金沢市内のホテル



発表の様子
= 6月15日、金沢大学サテライト・プラザ (2階)

第12回日本熱帯生態学公開シンポジウム 「グローバル化と熱帯地域」

日本熱帯生態学会の第12回年次大会（大会長＝中村浩二自然計測応用研究センター教授、国立民族学博物館及び金沢大学サテライト・プラザ共催）が、6月14日～16日まで金沢大学サテライト・プラザにおいて開催された。6月16日に開かれた公開シンポジウム「グローバル化と熱帯地域」では、現代世界の「グローバル化」の問題点を明らかにし、熱帯地域の正確な情報・認識による「真のグローバル化」への道が熱心に討論された。

シンポジウム等



講習会風景
＝総合教育棟AI講義室

総合教育棟で 「交通安全講習会」を開催

6月10日、教養教育運営委員会教務・学生委員会の主催で、総合教育棟A1講義室において交通安全講習会が開催された。

講師の自動車学校長は、学生による死亡・傷害事故防止の抑止、学生自身が悲惨な交通事故の犠牲にならないよう呼びかけた。

講演会 「スモークハラスメントを考える」ひらく

6月28日、教養教育運営委員会教務・学生委員会の主催で、総合教育棟A1講義室において、学生と教職員の健康増進を図るため、「スモークハラスメントを考える」と題する講演会が開催された。野村英樹医学部附属病院総合診療部副部長を講師に招き、学生・教職員約30名が出席した。

なお、総合教育棟では今年度後期から、講義棟内の全面禁煙を検討している。



喫煙による禁断症状をわかりやすく説明する野村副部長
＝総合教育棟AI講義室

附属病院講演会「患者が望む医療の安全とは」

医学部附属病院は、6月3日、医療事故防止に関する研修会の一環として、NPO法人ささえあい医療人権センター COML 理事長辻本好子氏を講師に招き、「患者が望む医療の安全とは」をテーマとして、講演会を開催した。

教職員約270名が参加し、臨床第一講義室は満席となり関心の高さが窺われた。



辻本好子講師



熱心に聞き入る教職員
＝医学部臨床第一講義室

ニュースの杜

本学へのお客さま



左から中国・大連軽工業学院
魚紅閃教授，同金鳳燮学部長，
中村信一副学長，田中敏夫共
同研究センター助教授
＝6月3日，事務局特別会議室

教育学部附属幼稚園 第48回教育研究会開催

6月14日，附属幼稚園において「友達とかかわり合いながら創る生活－幼児の育ちに即した指導計画の再編成－」を研究テーマに，幼児教育研究会が開催された。200名を上回る県内外の幼児教育関係者が出席し，お茶の水女子大学の無藤隆教授の指導助言を受け，保育のさまざまな場における事例を熱心に検証した。



全体会議であいさつする大久保英哲幼稚園長
＝附属幼稚園プレイルーム



極限の白い大陸を思い出し
ながら講演する久保技
術専門職員

「極限の白い大陸・ 500日間」を講演

6月29日，金沢市文化ホールで，第42次南極地域観測越冬隊員として参加した久保栄技術専門職員（技術支援センター）が，「極限の白い大陸・500日間の体験を通して」と題して体験を市民に講演した。

氷点下60℃の苛酷な寒さの中で地球が生まれてからの環境の変化を調べるための掘削作業や，雪上車で生活をしたことなどの貴重な体験を語った。



受講風景
＝金沢市文化ホール

サテライト・プラザ, 公開講座

サテライト・プラザミニ講演会 「持続可能な観光開発とは」

6月15日, 石川県立社会教育センターで, 金沢大学サテライト・プラザミニ講演会を開催した。広島大学助教授のカロリン・フंक氏が「持続可能な観光開発とはードイツと日本の事例からー」と題して2時間の講演を行い, 約50名が聴講した。



講演するフंक講師



熱心に聞き入る受講生
=石川県立社会教育センター



講義する前田法学部教授
=大学教育開放センター講義室

法学公開講座 「生活を守る法律学」

6月1日から5回にわたり, 大学教育開放センターにおいて, 仕事と雇用, 家族と離婚, 子供と非行, 裁判のABC, 保険と暮らし等をテーマに, 現代社会を踏まえた法学公開講座“生活を守る法律学”が開講された。初回は, 前田達男法学部教授が「仕事と雇用」について講義し, 56名が受講した。

暮らしの化学 -身のまわりからノーベル賞まで-

6月15日, 大学教育開放センターの公開講座「暮らしの化学-身のまわりからノーベル賞まで-」が, 工学部秀峯会館を会場にひらかれた。「ポリマーの化学-繊維・プラスチックから電導性ポリマーまで-」について, 中本義章工学部教授が講義した。



講義する中本工学部教授
=工学部秀峯会館中会議室

「海外留学フェア2002」を初開催等

6月26日、27日の2日間にわたり、大学会館大集会室で、初めての「海外留学フェア2002」が開催された。本学の海外協定校のうち、交換留学が行われている17校の紹介ブースのほか、留学生とのチャットコーナー、TOEFL (CBT) トライアルコーナー、メディアインフォメーションコーナー、



海外留学フェア風景

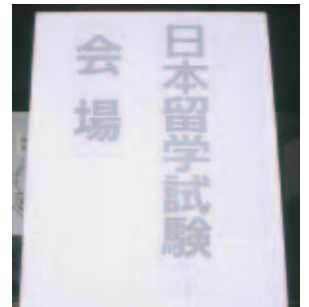


あいさつする林学長

COOP短期・長期語学研修個別カウンセリングの各コーナーが設置され、約150名の海外留学に関心のある学生が訪れた。

平成14年度(第1回) 日本留学試験を実施

6月16日、総合教育棟において、日本国際教育協会主催で我が国の大学等に入学を希望する外国人留学生を対象として、日本語力及び基礎学力の評価を行う日本留学試験が初めて実施された。



=総合教育棟前

「角間の里山自然学校」小展示

6月7日～16日まで、金沢大学サテライト・プラザ1階の交流サロンで「金沢百万石まつり」の協賛行事として、昨年引き続き「角間の里山自然学校」小展示を開催した。

期間中、「角間の昆虫」の標本（提供＝中村浩二自然計測応用研究センター教授）を展示し、また、「角間の自然」及び「自然学校活動」をパネルにより紹介した。



関心をしめす来場者
=6月15日、金沢大学サテライト・プラザ市民交流サロン

編 集 後 記

「百万石まつり」パレードに初めて参加した。

本学にとって参加4年目となる今年は、教職員以外に、学生約50人の参加を得た。炎天下でも激しい技を笑顔で演じきったチアリーダー部員、給水などの裏方作業にも進んで協力してくれた柔道部員、身体全体で楽しさを表現していた留学生の皆さん。教職員と一体となり、多くが来年の参加を約束してくれた。

大学改革まっただ中。母校からもアンケートや募金の依頼が舞い込むが、「自分にできることはしたい」と思うのは、思い出す人の顔がたくさんあるからだ。

「最近の金大生は愛校心が薄い」と巷では言うけれど、みこしの担ぎ手に卒業生が加わってくれる日も遠くない気がした。

(企画広報室企画係員 中嶋 敦子)

平成14年7月19日発行
(原則として毎月1回第3週に発行)

〒920-1192 金沢市角間町
編集 金沢大学総務部企画広報室

TEL 076-264-5009
FAX 076-234-4015

◆本紙の内容、その他の本学に関する諸情報については、「金沢大学ホームページ」(愛称“KUPIS”(キューピーズ))
(アドレス=<http://www.kanazawa-u.ac.jp>)でもご覧いただけます。
◆本紙に関する御意見・御要望などは、電子メール(E-mail) = general1@kenroku.kanazawa-u.ac.jp でも受け付けています。